


平成 29 年 8 月 26 日
(2017 年)

吹田市長 後藤 圭二 様

吹田市立留守家庭児童育成室運営業務
委託事業者選定等委員会
委員長 

吹田市立千里丘北留守家庭児童育成室運営業務の実施状況について（答申）

平成 29 年 8 月 1 日付 29 教地放第 465 号で諮問のあったことについて、下記のとおり答申します。

記

1 現在の委託事業者による吹田市立千里丘北留守家庭児童育成室運営業務の実施状況の評価について

現在の委託事業者による吹田市立千里丘北留守家庭児童育成室（以下、「千里丘北育成室」とする。）運営業務については、契約書や仕様書の内容を高い水準で履行しており、事業目的を踏まえた保育や運営が良好に行われており、児童の健全育成に大きく貢献しているものと評価する。以下にその理由を挙げる。

(1) 児童との関わりについて

留守家庭児童育成室の運営において、児童と指導員との関わりはとても重要な要素である。児童が育成室を楽しい場所と認識するためには、また、保護者が育成室を安心して預けることができる場所と認識するためには、指導員が児童との良好な信頼関係を築くことが必要である。

千里丘北育成室では、児童と指導員の距離が非常に近く、指導員は常に児童の近くで一緒に遊んだり、目の行き届く場所から声を掛けたりする姿が見られた。児童も指導員をよく慕っており、とても楽しそうに過ごしていた。また、指導員の声かけにより、自由な遊びの時間から、全員での取組や終わりの会への場面の切り替えがスムーズに出来ていたことから、児童と指導員との間で信頼関係が構築されていることが確認できた。

(2) 保育内容について

千里丘北育成室では、縦割りによる保育が行われており、高学年がリーダー的な役割を積極的に果たし、低学年を助けたり、指示をしたりしており、指導員も高学年の力を借りながら保育を行っていた。高学年にリーダー的な役割を持たせ、成長段階に応じたふさわしい活動を担わせることにより、児童の健全育成の目的を踏まえた、適切な保育の提供が見られた。

また、入室児童数が増加するに伴い、子ども集団を分割して適正な集団規模を確保することが重要になるが、当育成室では2つの支援の単位での生活と担任指導員をきちんと位置づけつつ、自由時間等は行き来自由として柔軟な対応をしており、適切な対応が図られていた。

(3) 運営体制について

基本的に育成室は午後からの運営なので、指導員はフルタイムの雇用でないことが多いが、千里丘北育成室の常勤の指導員については、夏休み等の午前中から育成室が開室している日を除いて、午前中は、委託事業者が運営している認定こども園で保育補助として勤務している。そうすることにより、指導員をフルタイム勤務で雇用することが可能となり、指導員の雇用の安定化が図られている。経験豊富な指導員を育成するという意味でも効果的である。

また保育開始前に、指導員の打ち合わせ会議の時間が設定されており、指導員が連携して保育にあたる体制ができていることも評価できる。

(4) 保育室環境について

視察日は、小学校の工事の都合で運動場が使えない中、児童にとっては窮屈な様子も見られたが、その中でも、自由遊びの時間には、絵本やブロック、各種ゲームで比較的静かに過ごす部屋と、身体を動かして活動的に遊ぶ部屋に自然に分かれていた。

(5) 学校との連携について

千里丘北育成室の開室は、平成 27 年 4 月の小学校開校と同時であり、特に最初の時期については、試行錯誤による運営が必要であったと思われる。そういった中においては、千里丘北小学校、放課後子ども育成課と連携が不可欠であるが、特に情報の共有という点がしっかりとできており、千里丘北小学校の強い協力のもと、児童・保護者が混乱しないような工夫がなされている。また、事案によっては、小学校と委託事業者とで迅速に対応しているケースも見受けられた。

(6) 委託事業者は法人として規模も大きく、かつ経営基盤も安定しており、長期間に渡る千里丘北育成室運営業務の受託は十分可能であると判断できた。

2 今後の育成室運営に係る課題について

現状では、千里丘北育成室の運営業務は良好に行われていると評価するが、更なる向上を目指して、以下の項目について考慮をしてもらいたい。

(1) 室温管理の徹底

育成室に多くの児童が過ごしていると、室内の温度が上昇する。児童の出入りによる扉の開放時間も長くなり、エアコンをつけていても室内の気温が高くなり、児童の熱中症の要因ともなり得る。

指導員は、室内の気温についても常に気を配り、室温上昇を感じたら、エアコンの設定温度を下げたり、扉の開放時間を減らしたりして、室温管理を徹底するべきである。

(2) 研修参加等による継続的な専門技能の習得

指導員に対する、委託事業者の本業である乳幼児保育とは異なる、学童保育の専門的知識や保育方法を習得するための研修体制が現行ではやや不十分に思われる。今後入所が予想される発達障がいを持つ児童の保育についての研修についても継続的に取り組む必要があり、今後とも市と協力して指導員のスキルの向上を図ってもらいたい。

- (3) 育成室に対する苦情等については、小学校では寄せられていないとのことであったが、今後苦情や要望が寄せられた場合は、これまでのような両者の強い連携でもって対応してもらいたい。
- (4) 上記1(4)の事項について、動的活動空間と静的活動空間を意識的に確保するには至っていなかった。限られた空間のなかでも、部屋ごとに動的活動空間と静的活動空間を意識的に設定する時間を設ける等の工夫をすることで、これから人数が増えてきた場合にも適切な保育環境が提供できると思われる。
- (5) 静養空間についても、限られた空間の中ではあるが、カーテンや家具等によって確保する工夫が望まれる。
- (6) 千里丘北育成室については、今後、児童数が増加することが予想される。そのような状況では、保護者への連絡事項の伝達、保護者との連携が、次第に煩雑になってくるものと思われる。保護者と連携し、保護者の安心感を得ることは、育成室を運営する上で必要不可欠であるので、懇談会、連絡帳、電話等、状況に応じたツールを用いて、保護者との連携の質を維持、向上させるように努めてもらいたい。